

マテオ・リッチ書簡集(『利瑪竇書信集』)訳注稿(二)

安部 力

はじめに

本訳稿は、一六世紀(明朝末期)に始まる東アジア地域へのカトリック・キリスト教宣教師、特にイエズス会士の活動において、大きな先駆的役割を果たしたマテオ・リッチ(中国名は利瑪竇、イタリヤ人、1552~1610)が残した書簡に関する訳注(1)の続編である。

訳注作業の目的・意図などは既に前稿(一)冒頭において説明しているが(2)、本作業が念頭に置いている「典札問題の内実」に関して、新居洋子氏の『イエズス会と普遍の帝国 在華宣教師による文明の翻訳』(名古屋大学出版会 2017年)が、大変示唆に富むので、是非参照されたい。

【凡例】

・底本：『利瑪竇書信集(上)(下)』(『利瑪竇全集』(3)(4)、羅漁訳、(台北光啓文化事業、1986(中華民国75)年)

・リッチを始めとするヨーロッパ人神父などの人名表記については、これまでの研究に於いても一定していない。それは、中国語音を元にした漢字訳表記が揺れていることから分かるが、どの言語(ラテン語かイタリヤ語かなど)の読み・表記を採用するかにも関わっており、本訳稿でも表記が揺れていることがある点をご承知おき頂きたい。(例えば、矢沢本ではリッチは「マッテオ」であり、平川本では「マッテオ」となっている。更に後藤基巳氏や柴田篤氏の『天主実義』では「マテオ」となっている。本訳稿では、主要な人物名表記について、確認できる範囲では原則として『イエズス会の歴史』(ウイリアム・パンガート著、上智大学中世思想研究所監修、原書房、2004年)の人名表記(ヴァリニャーノ、アクウアヴィヴァなど)に従うこととした。(但し、パンガートはリッチの漢名表記を「李瑪竇」(同書194頁)としているが、「利」と「李」は普通であるため、ここでは問わない)

【主要参考文献】

- ・『マッテオ・リッチ伝1~3』(平川祐弘著、1・東洋文庫141、1969年、2・東洋文庫624、1997年、3・東洋文庫627、1997年、平凡社)
- ・『中国キリスト教布教史一・二』(『大航海時代叢書』第II期 第8~9巻所収、マッテオ・リッチ著、川名公平訳、1982年、岩波書店)
- ・『イエズス会士中国書簡集1~6』(矢沢利彦編訳、1康熙編・東洋文庫175・1970年、2雍正編・東洋文庫190・1971年、3乾隆編・東洋文庫210・1972年、4社会編・東洋文庫230・1973年、5紀行文庫)

編・東洋文庫251・1974年、6信仰編・東洋文庫263・1974年、平凡社、1980年)

・『天主実義』(柴田篤著、東洋文庫728、平凡社、2004年)

・『利瑪竇伝』(羅光著、光啓出版社、1960年)

・『在華耶穌会士列伝及書目』(費頼之(Aloys Pfister)著、馮承鈞訳、中華書局出版、1995年)

・『中国天主教史人物伝』(方豪著、台中光啓出版社、天主教上海教区光啓出版社発行、2003年)

・『中国キリスト教布教史一・二』(マッテオ・リッチ著、川名公平訳、矢沢利彦注、平川祐弘解説。大航海時代叢書 第II期8、9、岩波書店、1993年)

【注】

- (1) 『マテオ・リッチ書簡集』(『利瑪竇書信集』) 訳注稿(一)、『北九州工業高等専門学校研究報告』第50号 平成二十九年) この他、本件に先行するマテオ・リッチに関するテーマを扱った訳者の成果としては、『天学初函』における『職方外紀』の位置が示すこと、『哲学資源としての中国思想—吉田公平教授退休記念論集—』所収、吉田公平教授退休記念論集刊行会編著、研文出版、2013年3月) があり、その展開例を台湾に於いて見いだそうとした成果が以下の一連の報告群である。「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(一)——祖先祭祀をめぐる問題——」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第41号、平成二〇年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(二)——天后聖母——」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第42号、平成二十一年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(三)——現地調査における現状と課題——」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第45号、平成二十四年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(四)——図・像を中心に(Ⅰ)——」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第48号、平成二十七年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(五)——建築様式及び装飾備品を中心に(Ⅰ)——」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第49号 平成二十八年)。また、前稿作成後、東洋文庫蔵『Opera storiche del P. Matteo Ricci S.I.』(Pietro Tacchi Venturi)を目にする(ことが出来、本書簡集に関連する内容の確認を行った。(この点については、既に前掲『キリスト教布教史一』623頁に言及がある。)

(2) 現在、科学研究費補助金(基盤C)の助成を受け、課題名「16世紀来華イエズス会士による異文化対応の諸相—「利瑪竇的規矩」の内実と展開—」による研究を進めており、この課題名にある「利瑪竇的規矩」の内実を探る一環として、本訳稿作業が位置づけられている。なお、「利瑪竇的規矩」は現在の台湾などでは「利瑪竇規矩」と「的」が省略されることもあるが、本稿では康熙帝の文書に従い「利瑪竇的規矩」としている。

『マテオ・リッチ書簡集』訳注稿 本文

【和訳】(原訳注は紙面の都合上割愛したものもある)

21(一) リッチよりリスボンのマフェイ神父へ

(イエズス) キリスト マリア キリストの代理者である尊敬する神父へ

願わくば神の恵みが私達の上に満たされん事を。

今年、神父からの手紙を二通受け取りました。これには布教史に関する問題がいくつか書かれていましたが、あなたが下さる思いやりは感謝に堪えません。私達の友愛は肉體は遙かに距離を隔てても少しも減るものではありません。残念なのは、私は外部の情報に關してはあまり報告できないことです。内心あなたが感じていることは、私の精神を奮い立たせます。神父がお尋ねになった資料に關する簡単な報告は、既に去年の手紙で書きましたが、私の考えを述べたまでなので、出来れば、ヴァリニャーノ神父からの報告を待つて下さい。一部の人が既にヴァリニャーノ神父自身もインドや中国、日本などの変わった風俗全てに關する著述を續けていて、どうにかして詳細な分析と忠実な記録をしたいと考えているからです。他の事に關しては、ヴァリニャーノ神父の手紙を待つて必要は有りません。例えば、総主教教区の規則や教区會議、インド布教の歴史、会院建設や布教区設定などのことです。他の人は私に向かつて、ヴァリニャーノ神父が来るのを待つたほうが良いと言いますが、去年、ローマに行つてしましました。あの聖フランシスコ・ザビエル伝についてはテクセイラ神父によつて良く描かれています。彼は極めて聖徳を備えた人で、且つ最もあなたの仕事を理解されており、彼以上によく理解している人はいないでしょう。アンドレア・フェルナンディ神父も以前ここに住んでいたことがあり、ゴンカロ神父とともにモノモパタ地方に行かれ、二人はともにその地で亡くなりました。フェルナンディ神父はご高齢でありましたが、聖徳を備えた人物であり、以前、私にかの地のことを多く話しておきかけたので、これらの記録が神父にはたぶん必要ないにしろ、彼が亡くなる前に記録を保存したかったです。それについてはまた来年改めて神父に送ります。来年といつたのは現在他の計画もおありだろうと拝察したからです。もし神父がなにかここで必要なものがありましたら、ローマを通してテクセイラ神父に請求してください。他の人々もあなたが望むもの総てを差し上げますし、私も同様です。私がこのように言うのはあなたになにか責任を押しつけようというのではなく、イエズス会と聖なる教會の利益の為なのです。

フランシスコ・マルティン神父は東方に赴く途中のモザンビークで亡くなられ、シメオ・パイスマゴアについて一カ月後に相次いで亡くなられました。その外の人々も、殆ど皆病に倒れてしまい、四人だけがコチンに勉強をしに行きました。コチンに着いてからの状況は幾らか良く、今年は約千二百人が受洗しました。フランシスコ・バジオ神父の助力は大きく、彼こそまさに「信者の父」と呼ぶにふさわしい人物です。ムガール王朝に服務奉仕のため赴いていた三人の神父のうち、フランシスコ・ヘンリケス神父は戻ってきました。彼の言うところ

ころによれば、アクバル大帝をキリスト教に帰依させるのは殆ど不可能で、アクバルが私達神父を招いてのは、ただ世界にある總ての宗教について知りたかつただけだからだそうなのです。ですから、アクバルはポルトガル人とも仲良くしていたのです。この皇帝は目下その兄弟と戦争中で、彼の弟が統治しているベンガル、シンデ地方までを支配しようとしています。又、以前はその兄とも戦争するため、四万の軍隊を派遣して(ガンジス)川を渡らせましたが、この結果についてどうなつたかは知りませんが、大帝の軍隊が川を渡つたのかどうかも分かりません。ルドルフ神父はこの前、人を派遣され、省會長に彼らは既に正式な居住許可を獲得したと報告していました。(しかし)今現在まで、ヴァリニャーノ神父から何の指示もありません。何故なら、彼が在る場所から船はもう到着しているのに、彼の手紙は届けられていないからです。

今、神父達は皆元氣です。全員大変忙しいのですが、私だけが何もやっていません。今年に入つてもう二回も病氣になり、上司は私にまず神学を修了させようとなさつて、他の雑用をさせてくれないので、機会があつたらひとしきり懺悔に行かなければなりません。

神父からの手紙を拝見した時、あなたの時間を少なからず奪つてしまい、煩わしい仕事を増やしてしまったことを痛感して、今内心とても不安に思っています。もちろんこれはあなたからの手紙が大変私の心を嬉しませますし、あなたからの手紙をいつも待つていられるということなのですが、必ずしも長い手紙である必要はありません。短い手紙でしたらあなたの貴重な時間を割かせることもなからうかと思えます。もしシプリアーノ神父があなたの所へ伺つたり、あなたが手紙を送ることがありましたら、必ず私に代わつてよろしくご挨拶をお願いいたします。その他の会の友人にもあわせて私に代わつてよろしくお伝えください。

神父の聖なる祈りとミサの中に私達の為の祈りが有らん事を。

あなたと神のうちにある小さき身のリッチより

一五八一年十二月一日 ゴアにて

(訳文注)

(1)この書簡については、平川祐弘氏『マテオ・リッチ伝』に言及が無いようであるが、この前後のリッチ及びミケレ・ルツジェーリ(羅明堅)イタリヤ人宣教師、1543(1607)の書簡に言及されているので参照されたい。

【中国語・原文】

21(一) 利氏致里斯本馬賽伊神父書 一五八一年十二月一日 撰於臥亞

基督 瑪利亜

在基督内極可敬的神父…

願基督的平安常充滿我們的心靈!

今年、我自神父处接到了兩封信、是有關傳教史的幾個問題、我因您給我的愛心而感動不已、因此、我們之間的友愛、並不能因肉體相隔的遙遠距離而稍減。所遺憾的是、我不能用外在的標記來向神父作報告、您内心对我的情感、使我精神振奮。神父向我詢問有關資料的事、去年我已向您修函、提出我的看法、那就

是、若是可能、等候范礼安神父、我確知曾有些人已給他寫過信、他自己也將繼續寫作、關於印度、中國、日本等國方面的一切奇風異俗、他也設法仔細的探討、更忠實的記錄、其他的事情就沒有必要期待視察員神父了。例如總主教區的章程、教區會議、印度傳教歷史、建設會院及傳教區等。人家常向我說、務必等視察員神父來到、去年他曾去羅馬。那本方濟沙威神父已由德塞伊拉神父寫好、他是一位極具聖德、且是最瞭解您(所做的事務)的一位、無一人能比他做得更好。安德肋弗南德神父也在這裡住過、他曾與龔加録神父在茅諾毛大巴地方共勉過、二位也就是在那裡一同致命的、他是一位高年而有聖德的神父、他曾向我許下要告訴我那裡很多事情、同時、我也要他將其意願寫出、因為、雖然這些資料為神父也許沒有用、但在他死之前、我要保存它、將來再寄給神父、就是來年。我說來年、因為我疑惑神父、現在也許有別的打算、不過如果神父需要這裡的任何東西、必需透過羅馬的請求德塞伊拉神父。以及其他的人才能將神父所希望的一切給神父、我也是一樣、我說這些、並無意要給神父一種責任、因為這是耶穌會及聖教會的利益之所在。

方濟・馬丁神父在來遠東途中死在莫三鼻給、西滿盎・巴伊斯在到臥亞一個月後、相繼去世。其餘幾乎全部也病倒了、四位勉強去了交趾。到達之後、情形尚稱良好、今年約有一千二百人受洗。方濟・巴範濟神父協助之力居多、他真可稱是「教友之父」。去蒙兀兒皇廷服務的三位神父、其中方濟・恩利格已回來了。據他說、聖格伯大帝皈依基督的可能甚微、他之所以招請我們的神父前往、只是他想對世界上所有的宗教有所瞭解而已、他也曾和葡萄牙人和平相處。這位皇帝目前正和他的兄弟作戰、他的皇弟統治孟加拉・辛德地方也歸他所有、曾以四萬軍力渡過恒河、與其兄作戰、而不知戰爭結果如何。不知大帝揮軍渡過河否。羅道耳富神父等曾派人來、給省會長報告他們已正式獲得居住許可證。迄今不曾獲得視察員神父的任何指示、因為從他那裡開來的船已到、但並無他的信件。

全体神父目前皆很健康、都相當忙碌、只有我無事做、今年已兩次患病、上司要我把神學念完、因我不時參與雜事、所以有時真該去懺悔一番了。

当我看到神父的信、深知耗費了您不少時間、給您增加如此多的麻煩、因此感到內心不安。總之、您的來信確使我高興萬分。所以仍希望您常給我寫信、但不必過長、以免耽擱您太多的時間。假如西比亞諾神父來您這裡或您給他寫信時、務必代我向他致候、其他同會的朋友們、也一併代我問好。並請神父在聖祭與祈禱中為我代禱。

您在基督內的神父 利瑪竇敬上
一五八一年十二月一日 撰於臥亞

【和訳】

2 | (二) リッチよりマルティノ・フォルナリ神父へ(1)

イエス マリア キリストの内に尊敬すべき神父へ

願わくば神の恵みが私達の上に満たされん事を

マラッカから私が差し上げた手紙でもう私がインドから中国に派遣されたことは御存じだと思います。八月にここ、中国の港であるマカオに着きました。

海を旅すること一カ月以上、神はその間に重い病を私にお与えになり、この航海の間中、止むを得ず床に伏せていました。(しかし)神の思召しにより、船から陸に上がると回復しました。私はすぐ中国語の勉強に取り掛かりましたが、知って頂きたいのは、中国語はギリシャ語やドイツ語よりはるかに難しいということです。発音に関しては、同じ発音でも意味の異なる語が大変多くあり、多くのことばに千個近い意味があり、無数の発音を除いてもまだ平、上、去、入、の四声があるので。中国人の間でも会話する時に、筆記によって自分の考えを伝達するときもあるくらいなのですが、文字自体には彼らの間に差異はないようです。しかし、中国の文字自体の構造も実に言い表わすのが難しく、今私達がしているように自分で見て、自分で書いてみるなど、今まさに私達が勉強しているようにする以外、何から説明すればよいのか分かりません。多くの言葉、多くの事柄がある分だけ、それだけの文字があるので、大体七万字ぐらいある様で、そのどれもが異なり、非常に複雑です。もし、あなたが中国語の書籍がいくつか欲しいのであれば、あなたの希望を完全に満たせるよう説明を付けて送って差し上げます。言葉は総て単音節で、彼らの書き方はまるで絵のと同じやり方だからです。何故なら、書くのに筆を用いるし、全く私達が絵を書くのと同じやり方です。このようなやり方でも、少ない国が漢字を用いており、話す場合は発音など今私達が学習しているものと全く違うのですが、書いたり、書籍の上では漢字を使うことも多く、日本やベトナム、中国は皆国籍が違い、話し言葉も違うのに、文字の面では同じ物を使うのです。例えば、ラテン語では「天」のことをCaelum、ギリシャ語ではUrano、ポルトガル語ではZeo(Ceo)というように、日本語やベトナム語でもそれぞれ読み方があるでしょうし、他の言葉についても推して知るべしです。中国語には冠詞や、女性詞と男性詞、単数複数型、時制の区別などありません。しかし、彼らは副詞を用いてそれを補い、十分的確に意志を伝えていきます。中国において、文字が多く読める人ほど、学識があるとされ、そのような人だけが官職を得、社会のなかで高い地位を得るのです。これこそが、中国で科学というものが発達しなかつた原因でしょう。彼らの見方からすれば、総ての本を勉強した人は、総ての学問に通じているということになるのです。このような理由から、私達のフイリピン人の仲間、この学生が余り長い時間本を読まないのを見て驚いていました。目下、私は少し中国の文字を習いました。ここにはもう一人、ナポリ籍のイエズス会神父であるルッジェーリ神父がおられ、修練と勤勉に努めて、中国を帰依させる使命を背負い、(結果)たいへん状況が進展し、両広総督の信用を獲得したので。彼の最大の願ひである中国内地での神への奉仕の準備において、これはとても大きな希望になっています。それは少なくない中国人がもはや彼らの偶像を信じておらず、もし、誰か彼らに私達の教理を紹介する人がいれば、彼ら(中国人は)容易に受け入れると確信しているからです。しかし、惜しいことに、今彼らは鎖国政策を取っていて外人が上陸して定住することを許していません。現在、神がこの大きな国家に注目されている様子で、何故かは分かりませんが、法律で禁止されているのに、両広総督は外人である私達の上陸を許してくれたのです。もし、なにか他に変わ

ったことがなければ、大体一カ月後には私も中国内地に上陸して、(実際はこの年の七月に上陸。五カ月後) ルッジャー神父と一緒に中国語や中国文学の研究を更に進めなければなりません。

中国の大きさは他の何処とも比べものにならないほどで、その上、土地は非常に肥えています。そこには、公爵、侯爵、伯爵等の諸侯が封じられて取り仕切るといふことはなく、そこには、ただ、総督、巡撫、知府、知縣という官吏が配属されて地方行政を掌握しており、総てが彼らによって運営され、その威厳はまるで鬼神のようです。官庁内ではやたらに笑うのですから、官庁の外では更に甚だしいでしょう。官庁内ではやたらに笑うのは、公務の場所だけでしょうか自由に外人と話しもできません。(その公務の場所というのは) 大きな建物で、長い廊下が走り、何処か私達の聖堂に似た、彼らが「衙門」と呼ぶ、一番最後に現れる、小さな教会にも似た建物で、中に我々の祭壇に似た仕事用の長机をまん中の後側に置いている官吏が座る机の後ろ側という場所だけなのです。官吏たちは美しい礼服をまとい、胸の前と背中金色の糸や絹で刺繍された飾りをつけて、その飾りによってその人の位の高低が分かるようになっており、それはまるで私達が枢機卿の大紅帽子によって枢機卿を見分けるのと一緒のようです。(首都である) 紫禁城には三つの門があり、真ん中の正門はとくに高く、皇帝だけが出入りでき、正門の左右に別に二つ門があり、左門は文武百官の出入り用で、右門は皇族専用なのです。皇帝が紫禁城を出る時や、または高級官吏が外出する時は武装した兵士が列をなして護衛にあたり、その官職位の高さによって兵士の人数も決めます。凡そ官吏と話をする時は、跪かなければならず、官吏との距離は石を投げて届かない程遠い、高い所に官吏は座っています。官吏から回答を得たり指示を伝えられてからは退き、官吏が外出するときには、民衆は道を空けなければならず、ちよつとした過ちによってでも、残酷にも鞭で打たれ、死んでしまふことがよくあるのです。先生が生徒を鞭で打つことさえ日常的なのです。

ある日、私は一人の中国官吏を訪問しましたが、彼は私達を尊敬し、私達の文化を慕っていました。ですから、彼は私達を立たせたまま跪かせずに話をしました。約三十分、彼らと天主教の真理について話し合いました。謁見は表門が閉まるまで続けられ、その間、彼と他の人は全く自由に話をすることも出来ませんでした。彼らが外出する時、まるで教皇様のように四人で担ぐ籠にのり、その四人は常に交替しながら担いでいました。彼らがどこに行くにしろ、常に手に武器や棍棒を持った親衛隊が前後につき従い、前に居る儀仗隊はまるで古代ローマの執政官達が巡回に出るときに従う者のようで、前に位置する儀仗隊が斧や棒を担ぐのは一緒なのです。その上、手には鎖や拷問用の手枷足枷を持ち、手足を縛った三、四人の犯人を無情にも町中を引き回し、囚人はその痛みで喚き叫び、その声は遠くまで響く有様です。神父さま、この様子を見た人はまるで悪魔を見たかのように皆逃げ、家々の戸や窓は閉められ、商店さえも店仕舞するのです。何故なら、それを見ただけで恐ろしさや悲しみを感じるからです。これらは皆自分で見たことではありませんから、これ以上詳しいことは申し上げられません。このように中国の役人はこれほどの厳しさで中国全土を

統治しているのですから、一般民衆は敢えて頭を上げるようなことはしません。更にひどいのは、身分が大変低い農民や職人出身の子息が、ただたくさんの文字を覚え、知識を身につけたというだけで出世できるということです。

中国皇帝の毎年の税収は、聞くところによると、約一億両で、大架装すぎるという人も居ますが、私は事実と差はないと思います。中国人は事務処理が大変鮮やかで、地図も出版していて、それを一冊の本にまとめ、主な産物や人口、名勝地を記載しています。一つの重要な都市ごとに皆このようなものがあり、閲覧することが出来ます。極東地区視察員ヴァリニャーノ神父も以前参考にされたようです。しかし、私は多くの中国書籍を見ることを欠かしてはならないと思います。もし、神父さまが中国のどんな書籍でも喜ばれるのであれば、なんとかしてお送りいたします。最も良いのは、私がラテン語かイタリア語で読み方を付けることですが、私は今のところまだ漢字が書けませんし、中国語を話すことに関してもまだまだ道のりは遠い状態です。

中国人は医学にも大変精通していて、医学に関する書物は私達の会院でも既に購入していますが、これらは、私達が持つ医学の書物と同様に、絵をたくさん用いて説明してあります。各分野の書物は非常に多く、彼らの印刷技術の確立は私達よりも早く、但しそれは字母を用いずに、立派な木を掘ることによって印刷してあります。この為、頁の数だけ板を彫らなければならないのですが、彫刻する人間の技術は大変高く、彼らは私達が一頁書くと同じくらいの速さで一頁分の板を彫り上げてしまうのです。中国人は大変多くの金山銀山を持っています。銀貨や銅貨は使わず、ただ元宝という貨幣だけを使います。中国では貿易が大変盛んです。彼らは偶像を崇拜していますが、求めた願いが叶わなかったら、その像を叩きます。そして又その後、元のようにならぬのでよしとす。彼らは悪魔や妖怪も信じていて、危害を加えないよう求めるだけでよしとし、神への信仰などは気にも止めません。そして祭祀を行なう者も余り尊敬されていませんから、私達ヨーロッパ人が神父に対してどんなに尊敬しているかということに対して、大変驚きます。

新大陸や西インドから来たスペイン籍の神父達は、専ら布教のみが目的でやって来ており、彼らは多くの危険と苦勞を乗り越えて、最後にはポルトガル人のおかげでなんとか中国大陸に上陸できました。彼らはヨーロッパに帰る準備をしておらず、その中には何人かのフランシスコ会の宣教師もいます。このような宣教師達はとても大きな熱意を持って、中国が、神へ帰依することを考えています。その中には私達の同志であるルッジャー神父もいます。今現在彼らは戻りの船に乗っています。ですから、沢山のことをお知らせする機会はあるのですが、どのくらいお伝えできるかは分かりません。私は、私の不注意により、あなたに手紙を書かず、心配させてしまうようなことは出来ません。あなたが私に関心を持ってくださっているのは分かっていまして、私からの手紙を、まるで私を見るかのように待ってくださっているのを嬉しく感じていますから、死ぬまで約束は破らないつもりです。あなたと私の距離はこの上なく離れていますが、どんなに離れていてもあなたが私を忘れることはないでしょう。現在、私達が居るところは北緯二十二度半、東経は最も頼れる報告を根拠にす

ると百二十五度（實際は百十四度）で、ここから西に向かうほうがヨーロッパに幾分近いようですが、航海することから言えば、依然として長い日数が必要です。仮に新大陸からここに到るとすれば、最低二ヶ月は必要で、別の方向から航行するとすれば、1年でも足りないでしょう。神父、出回っている世界地図を信用してはなりません。私が絵画について地図を詳しく研究したことがないからなのか、それともポルトガルとスペインの国境争いによるものなのか、それが意図的な間違いなのかどうかも分かりませんが、間違っているものばかりなので、この問題に関しては今は早く解決せねばなりません。

手紙の余白も有りませんのでここまででいたします。神の恵みによってあなたの祈りの中に私があり、ガリアルディ神父やパドヴァにいる、私達を知っている総ての人が私のために祈りを捧げられることを。神父さま、お返事お待ちしています。ではまた。敬愛なる神父さま。

あなたの忠実な下僕であるマテオ・リッチより
一五八三年二月十三日 マカオにて

（訳文注）

（一）この書簡については前掲平川氏『マッテオ・リッチ伝』の三三頁から七八頁にわたって、他の書簡と対照しながら、断片的且つ詳細に分析と紹介を行っており、大変参考になる。本訳稿が用いた「中国語訳本」が省略しているような部分なども見受けられるが、平川氏訳文と相互補充する参考となれば幸いである。

【中国語・原文】

二一（一）

利氏致巴都阿德・富爾納里神父書 一五八三年二月十三日 撰於澳門

耶穌 瑪利亜

在基督內極可敬的神父……

願基督的平安常充滿我們的心靈！

神父由我從麻六甲給您写的書信已知悉他們把我從印度派到中國來。八月我們到達這個港口——澳門。在海中航行一個多月。上主曾讓我患重病、整個航行中我不得不睡在床上、托天主的聖寵、一下船身體便康復了。我立刻學習中文、您要知道中國語文較希臘文和德文都難。在發音上有很多同音而義異之字、許多話有近千個意義、除掉無數的發音外、尚有平上去入四聲。在中國人之間、有時還須藉筆寫以表達他們的思想、但文字在他們之間並無分別。不過中國文字的構造實難以形容、除非親眼見、親手去寫、就如我們今天正學習的、真不知從何說起。有多少話、多少事便有多少字、好像七万左右、彼此都不一樣、非常複雜。假使您願我給您寄幾本中文書籍、我會滿全您的希望。並附說明。所有的話皆是單音的、他們的書法幾乎等於繪畫。因此他們用刷字（指毛筆）寫字、正如我們用它畫畫一樣。雖然如此、不少國家使用它、雖然說話大不一樣、也沒有我們所有的字母、但在書寫上、或在書籍上、不少使用它、如日本、越南與中國、彼此國籍不一、語言也大不相同、但在文字方面却相同。例如拉丁文稱一天為 *Coelum*、希臘文為 *Uranos*、葡萄牙文為 *Coeleste*、日本文與越南文有其它稱呼、其余可以類推。中文沒有冠詞、性別、單複數、時間的區別。不過他們用

副詞作補救、表達的十分清楚。在中國誰識字越多便是最有學問的人、只有這些人才能擔任官職、在社會中才有地位。這就是為什麼科學在中國不發達的原因。因為以他們的看法、凡唸所有書籍的人、便知書中所有的學問。因此我們悲冷翠籍的一位會友、對一位學生在不長的時間看所有的書而感到驚奇了。目前我已學習一些中國字了。這裏有一位本會拿坡里籍羅明聖神父、以修養與勤勉負起歸化中國的工作、很有進展、他獲得兩廣總督的信任。準備在中國內陸事奉天主、這是他最大的希望、因為不少中國人對他們的偶像不再信仰、因此如有人對他們介紹我們的教理、相信他們是很容易接受的。可惜直到目前他們仍閉關自守、不準外人進入定居。現在好像天主正注視這個龐大的國家、我們不知道為什麼、雖然有法律禁止、但兩廣總督却准外人進入。假使沒有別的變故、大約一個月後（實際上他於當年七月進入中國）、我也要進入中國、和羅明聖神父在一起、對中國語文與文學、我們必須進一步研究。

中國之龐大真是天下無敵、而且土地也非常肥沃、在那裏沒有公、侯、伯等分封諸侯執政、只有總督、巡撫、知府和知縣之類的官吏執掌地方行政、一切皆由他們主持、威嚴猶如神明、在家中如此、在外也莫不如此。在家中不苟言笑、不隨便同外人講話、除非在公共場所、即在一座大廈、有很長的走廊、有些類似我們的聖堂、他們称作「衙門」、在最後呈現一座類似小型教堂的建築、正中設公案、好似我們的祭台、官吏座位設在公案後面。官吏身穿華麗的禮服、胸前與背後有以金線與彩絲繡成的補子、由此補子可知他們官職的高低、正如我們從樞機主教的大紅帽子、可知他們為樞機一樣。在紫禁城午門有三道門、中為正門特別高大、只有皇帝一人可以出入、正門左右另有二門、左門供文武百官出入之用、右門專為宗室王公之用。在皇帝出紫禁城或大官外出、有武裝士兵列隊護衛、以其官職的大小、其衛兵多寡都有制定。凡和官吏講話、應當跪著回話、距離約有投石那麼遠、官吏高高在上。得到回答或由佞諛指示退下、官吏外出、百姓應當回避、往往為了一點小過遭到殘酷的鞭打、不少死在杖下、老師打學生也是常事。

一天我們去拜訪一位中國官員、他尊敬我們、也景仰我們的文化。他讓我們站立而不跪著和他交談、約有半個小時、和他們談有關天主的道理。觀見完畢大門關上、他和他的人都不能和其他的人隨便講話。當他們外出時、猶如教宗一樣、乘四個人抬的轎子、抬轎的人時常更換。他們往某處去、有衛隊手執武器棍棒、前呼後擁、前有儀仗隊、好像古代羅馬執政們出巡時、前行時的儀仗隊肩負斧頭棒束一般、還有拿鎖鍊、枷桎的、往往把三、四位犯人、手足捆起、無情在街上拖拉、由於疼痛沿途喊叫、很遠即可聽到。神父、凡看見的皆紛紛躲避起來、好像看見魔鬼一般、家家戶戶把門窗關上、商店也打烊。因為他們看見會感到難過和恐懼。這一切並非是我親眼所見、因此不能詳細敘述。總之、中國官吏以此嚴厲統治全國、一般百姓不敢抬頭、更不要提那些農家與工匠子弟了、他們的地位更低、只有多說書方能出人頭地。

對中國皇帝的稅收、據說每年約有一萬萬兩、有人以為太誇大、但我以為應該說是差不多。中國人處事十分精明、他們也有刻印的地圖、且訂為一冊、內載有主要的出產、人口與名勝等。每一重鎮皆有這類的地圖可以翻閱。遠東教務視察員神父范禮安也曾大略參考過。但為我必須多說中國書不可。假使神父您喜歡什麼中國書籍、我會設法給您寄來、最好是用拉丁文或義大利文併音、因為我目前

尚不会写中国字、对說中国話也差的相当遠。

他們对医藥也非常精通、对這類医藥之書我們會院已經購買、和我們同類的書是一樣的、多用繪畫說明。各科的書籍非常多、他們的印刷技術較我們的還早、但不是用字母、而是彫刻在很佳的木版上。因此書有幾頁、便彫幾塊木版、刻書的人技藝熟練、他們彫一塊板不比我們排一頁書差、而猶過之。他們有許多金銀磁、但貿易不用銀元或銅幣、而用元寶。中國貿易十分鼎盛。他們崇拜偶像、但中國人祈求一個恩典不獲得時、便打神像。後再和偶像和好如初、他們敬崇拜魔鬼、只求不加害於他們就可以了、而对天主的崇拜反而不放在心上。对祭司也不太尊敬、因此对我們歐洲人如何尊敬神父而感到驚奇。

從新大陸或西印度來了一些西班牙籍神父、專為傳教來的、他們經歷許多危險艱難、最後葡萄牙人設法幫助他們進入中國大陸。他們是不準備再回歐洲、其中有幾位是方濟會士。這些傳教士以極大的熱忱而來、以為中國已皈依天主了。其中還有一位我們的會友羅明堅神父。目前他們都回到船上去了。因此我們有機會可以叙述許多事、只不知有多少而已。我不能因我的忽略——不給您写信、使您獲得不到安慰。我知道您關心我、您基於看到我的信等於看到我一樣而感到快感、直到我死、我從不敢食言。我們彼此相距不能再遠了、但我以為遙遠並不能使您忘記我。目前我們所在的位置為北緯二十二度半、東經根地最可靠的報導為一二五度(實際應為一一四度)、如由這裏向西似乎距離歐洲比較近、当然如以航行而言、必須很長的時日才能抵達、如從新大陸到這裏、只須兩個月、如從另一方向航行、那麼一年還不夠。神父、不要全信世界地圖、我因為繪畫者不再仔細研究它、或因疆界的爭執、即在葡、班兩國之爭執、因此故意的或不故意的製造錯誤、不過今天這個問題就快要結束了。

信紙已快用完了、看在愛天主的分上、請您在您的聖祭中多紀念我、也請卡利巫狄神父以及那裏——巴都阿的其他我們所認識的人為我代禱為盼！

請多給我写信。再見！極可愛的神父再見！

您的在主內不肖神子 利瑪竇敬上
一五八三年二月十三日 撰於澳門

【和訳】

3 リッチよりローマのアクウアヴィヴァ総会長神父へ(1)

イエス マリア キリストの内なる代理者である尊敬すべき総会長神父へ
願わくば神の恵みが私達の上に満たされん事を。

私と共に派遣されたルッジェーリ、パジオの両神父は中国での布教活動計画についてまだあなたに報告してないようなので報告しておきます。彼らが書くことと、考えていることは一緒だと思います。目下すぐフィリピン行き船が出航する予定ですが、まだ出航には時間がかかりそうですので、この機会に乗じてあなたに短い手紙を書いています。私達は、ルッジェーリ神父の招きに応じるかどうか思案していたのですが、総会長には(これは命令ではなく、手紙なのですが)ルッジェーリ神父が要請している時計を早く送って頂くよう望みます。それは(中国官吏に)献上する為の物で、この事はヴァリニャーノ神父

からの手紙で既に御存じだと思います。ただ不幸なことに、諸々の雑事が発生して果たせずにいましたので、今回のことは神のお取り計らいだと考えます。彼らは既に二回も手紙をくれました。手紙のなかの要旨は、彼らは中国官吏に何度も接見しているが、知府は彼らに対して非常に疑いを抱いているので、ただかの地の定住許可は得ていない、ただし、知府の上司である両広総督が彼ら二人に対していくつか問いを発し、彼らの答えを「よし」としたので、彼らに定住許可を与え、更に食事と宿まで提供してくれた、とのこと。とりわけ、神父達の願いは中国皇帝の人民になることだという声明をよしとし、服装を交換しましたが、神父達にとってもこれらは大変良いものだと考えたので、北京(中国風)の和尚と同じ服を彼らに与えたということです。これは彼らが体裁を取り繕うのに最も適した下賜でした。

両広総督は私達が悪魔を追い払う権能があることを知った時には、彼は大変機嫌がよく、それは彼が悪魔を非常に恐れていたからでした。彼は別に家屋を持つていましたが、妖怪が取り付いて住むことが出来なかったため、神父に贈り物として与えてくれましたが、これは大変な恩恵でした。時計に関しては余り多く語りませんが、それはヨーロッパ式の私達の時計と、中国の水時計では全く違うし、更に時間や分の知らせ方まで私達のと違うからです。彼らが驚くのは、私達の時計は自動で動き、時間を知らせることもでき、長針と短針が時間を指し示すということです。しかし、これが私達が中国内地に入れた主要な理由ではありません。

両広総督がルッジェーリ神父に与えた家は寺の境内にあつて、その寺は非常に尊ばれていたもので、中国官吏の訪問や邪魔も受けませんでした。また、他にも神父達に家を与える約束をしていましたが、今は、中国人の習慣である、家を与えるという許可の証明書、つまり定住の許可を待っているところです。今日、彼らからその他の知らせを受け取り、先に述べたことを証明してくれました。同時に、今年の初め、両広総督が他の官吏を引きつれて寺に参詣して焼香し、神に礼を捧げ、その後、神父達の要請により、彼と官吏達は私達の小さな聖堂を訪れ、マリア像を敬拝しました。その他の多くの官吏も私達の聖堂に来て神父達と一緒に食事を取るよう要請しました。その中の最も位の高い二人の官吏は更にルッジェーリ神父を宴会に招き、芝居を観、官吏を接待する礼儀を以て彼を接待してくれました。近頃は良い日が続くので、まだ申し上げたいことがあります。

ヴァリニャーノ神父は出発する前までになんとか許可を得て、私をこのマルティン(スコラ)学校の責任者を担当させるおつもりでした。この学校はルッジェーリ神父が建てられたのですが、さまざまな手段を講じて、民衆が思うように万が一にもマカオに追放されたり、今迄の苦勞が全て水の泡になることを免れていました。ルッジェーリ神父は私の中国語学習を手伝うために二、三人の神父を残してくれました。中国語に関しては、私は大体満足いくレベルに達しました。目下、中国に居る神父が寄越してくる皆さんの手紙の中で、皆、私はもう中国大陸に来て良いと言ってくれています。ただ、ここ一カ月ほどは、ポルトガル人が商品購入のため広州に赴き、中国の貿易に参加しています

ので、彼らと一緒にやって行って、中国官吏の注意を引かないようするのが一番良いと思うのです。広州に上陸したら、広州の近くを流れる西江に沿って肇慶に行きます。大体、一日か二日の船旅です。もし神のご意向に沿うのなら、計画通り行くと思います。以上が今日まで私がやるうとしてきた事の概要です。総会長は既にルッジーリ神父、パジオ神父からのお便りで詳しいことは御存じだと分かっています。私もイタリア語でもう一度報告したかったので、お手紙を差し上げました。

私達は原則としてこの神父達の手伝いをしなければなりません。神の偉大な下僕であり以前この院長を努めていらつしやったゴメズ神父は、私達の「中国で布教活動を行なうという計画」を大変支持してくれていましたので、何の不足もなくりました。次にどのような人が院長としてくるべきか私には分かりません。このポルトガル領にある会院は大変小さく、学識のある神父も居ません。お分り頂けると思いますが、こんなことを言うのは、私の口数が多いからではなくて、目に止まったことを述べているだけなのです。もし目にとまらなかつたら、この会院と学校の神父達や上司が布教活動に関心がないばかりでなく、それどころか何か怨みでも持っているようだということがつきりとは分からなかつたでしょう。ヴァリニャーノ神父が詳しいことはもうあなたに報告済みだと信じています。「ルッジーリ神父はここに三年住んでいますが、この神父達は彼を殉教者にしようとしているのかのように、様々に彼を苦しめます。彼等は元々は大変素養のある人たちなのですが、布教活動に関しては、身を賭して初めて布教活動の意味を明らかにすることが出来るのです。しかしながら、ヴァリニャーノ神父はここマカオ会院の上司達の、布教区に対する権限を大幅に制限しました。」これは、私達三人が皆イタリア人であるからでしょうが、私たちのためにこのような特別な配慮は何も必要ありません。省会長であるロイ・エチエンダ神父は会院の院長として一人の神父を派遣されましたが、その人は今迄、他の神学校の校長を担当していました。その後、ヴァリニャーノ神父が、この院長をつれてインドのゴアに行つてしまいました。この神父は私と一度も口をききませんでした。彼がまだこの院長の職を担当していたら、きっと聖マルティン(スコラ)学校で教理を学んでいる中国学生を皆追いだしてしまつていたでしょう。彼はここで私達との生活が不快であるから等とは言いませんでしたが、これは彼と私達が親友であるからで、しかし実際には学校の校内に住みたくなかつたからでしょうし新しい信者にも冷たかつたのです。こんな言い方は大袈裟すぎるのかも知れませんが、「神は私がでたらめを言っているのではない事を御見通し」だと思ひます。目下、この偉大な計画が早いうちに実現することを望む以外、私の願ひは有りません。一番大切なことは、神のお望みに叶うことで、それは信者を日増しに多くすること、これこそが私達の最大の利益と見做されるものなのです。更に多くの人々の魂を帰依させることができれば、広大な中国においては、人口が多すぎて数が計り知れないほどでしょう。

神のこの世でのお恵みは少なからず有り、例えば、中国語の教師を得るといふ点では数々の便宜を図り給いましたし、並びにルッジーリ神父の熱意と英

知を以てこの会院を導かせたこと、(これは)ヴァリニャーノ神父の適切な配慮によるものでもあり、これも私達が享受した恩賜ですが、あのガスバル・ヴィエ・ピレガスというポルトガルの豪商が私達の身の回りの必需品を総て提供してくれるなど、いま必要なのはすべてお与え下さいました。

余りあなたの貴重な時間を割くことは望みません。アルメイダ神父、ルッジーリ神父そして私、皆あなたの神聖な祈りにおいて私達のために祈ることを願ひ、神の莫大な榮幸とイエズスの榮えある活動において私達に救いがあるよう、また総ての同志が我々の為に祈られんことを望みます。願わくば貴方の上に神の恵みと助けがありますように。

あなたの忠実な下僕であるマテオ・リッチより
一五八三年二月十三日 マカオにて
(訳文注)

(1)この書簡についても前掲平川氏『マッテオ・リッチ伝1』の三三頁から七八頁にわたつて、他の書簡と対照しながら、断片的且つ詳細に分析と紹介を行つて、大変参考になる。

【中国語・原文】

三、利氏致羅馬總會長阿桂委瓦書 一五八三年二月十三日 撰於澳門

耶穌 瑪利亜

在基督內極可敬的總會長神父…

願基督的平安常充滿我們的心靈!

我以為的同伴羅明聖神父與巴範濟兩位神父、對在中國傳教事業的計畫、不曾向您報告。他們所想的、正如他們所寫的一樣。現在就要開航向菲律賓去的那條船、不曾很早啓程。因此我趁此柱機、給您寫這封信。我們曾猶予一陣、是否應召回羅明聖神父、(不是用命令、而是信函)請您把鐘錶趕快送來、它是羅明聖神父所要求的、以便呈獻給、這是您從視察員神父的信所知道的。但不幸後來又有別的枝節發生而不果、這好像是天主安排似的。

他們已兩次和我們通信、信中大意是他們被中國官吏接見多次、知府對他們非常懷疑、而且不可獲得在那裏居留。但知府的上司、即兩廣總督曾給他們提出一些問題、他們答說「是」之後、便准許他們在那裏居住、並提供食宿。尤其神父們聲明願作中國皇帝的順民時為然、他們應該更換衣服、神父們以為這樣很好、於是他把北京和尚的服裝賜給他們、這是他所能恩賜最体面的服飾了。

當兩廣總督知道我們有權驅魔時、他十分愉快、因為他非常怕魔鬼。他有一棟房子、因時常鬧鬼而不能居住、他送禮給我們的神父、這是很大的恩惠。對鐘錶談得不多、因為它是西歐式與中國的更漏大不一樣、而且分點也和我們的不一。他們所驚奇的是我們鐘錶是自動的、會報時間、有長短針把時間指出。但這不是讓我們進入中國的主要原因。

他所賜給羅明聖神父的房子座落在一座廟宇中、非常講究、不曾受中國官吏的往訪與打擾。但是已許下要賜給他們另一座、目前他們正在等候准讓他們居留、並以中國人的習慣、給他們賜屋的書面証明。今天又收到他們其他的信、證實上言之事、並說兩廣總督於今年初、伴同其他官吏進廟燒香禮神、後由神父的請求、

他與官吏們到我們的小聖堂中禮拜、向聖母像致敬、許多官吏也來參觀我們的聖堂、也請神父們用飯。其中最高兩位官吏還請羅明堅神父赴宴、聽戲、並以接待官員的禮儀接待他。節日一連好幾天、因此敘述尚未結束。

視察員神父離開前、曾設法為覓得一許可、讓我擔任這裏聖馬丁經院學校的負責人、這是羅明堅神父建造的、設有各種方便、以免萬一和衆人所想像的被逐回澳門。並非前功盡棄。羅(明堅)神父留下了兩三人、幫助我學習中國語言。對於中國話我已略有成就。目前在他給我的許多信中、皆言我可以往中國大陸去。但是在此一個月了、葡萄牙人赴廣州參加中國商展、以便購買商品。所以最好和他們一塊前往、以免引起中國官吏的注意。在廣州登陸、然後從廣州沿西江赴肇慶、約一、二日的航程、假使中悅天主的話我就照計進行、這是直到今日我們所能做到的大綱。雖然我知道您已由羅、巴二鐸的來信知道其詳、但我仍願用義大利文再給您報告一番。

我們原則上須要這裏神父們的幫忙、從前上主偉大的僕人高麥茲神父在這裏擔任院長之職、他很支持這個赴中國傳教的計畫、因此什麼都不缺少。現在我不知道誰要來這裏做院長。這座葡屬殖民地地會院很小、有學識的神父也沒有。您要知道、我出此言並非因為我多口、而是要把看見的講出來、凡沒有看見的是不會明瞭的。這座會院與公學的神父們和長上、不但對皈依工作不感興趣、而且還執有某種程度的忿恨。相信視察員神父已給您詳細的報告。「羅明堅神父在這裏住了三年、同院神父幾乎使他變成了殉道烈士、百般為難他。同院的神父固然都是有修養的人。然對於傳教一事、只有身當其衝的人、才能明白傳教的意義。然而神父您應知道、遠東教務視察員神父對澳門會院的長上對這個傳教區的權力、大加限制。」我相信因為我們三人皆為義大利人、不必為我們有什麼特殊安排。省會長神父路易·威產德神父遣發一位神父來做這個會院的院長、他曾在其它公學擔任校長之職。後來視察員神父把這位院長帶回印度臥亞。這位神父不只是一次對我說、假使他仍留在這裏擔任院長之話、他定要把聖馬丁經院學校正在學習要理的中国青年全部趕走。他不說因為他在這裏和我們生活感到不快、因為他是我們的好朋友、但的確他不願住在公學裏、對新教友頗不友善。我不知道是否我大誇大其詞了、「但天主知道我並不撒謊」。目前除掉希望這個偉大的計畫能早日實現外、我並無其它意願。我想最重要和最中悅天主的事、是教友能日漸增加、我們把這個視為最大的利益、即能皈依更多的人靈、在龐大的中国、人口多得不可計算啊！天主在外的幫助上也給我們不少、如教我們中文的教師、在這方面便給種種方便、以及使羅明堅神父熱誠而睿智地領導這個會院。這是視察員范禮安神父的妥善安排、把我們所享的特恩也分給那位名叫卡斯巴爾威愛卡斯的葡萄牙富商、是他提供我們一切生活的需要、因此、我們心有的都有了。

我不願耽擱您太多的時間、麥安東、羅明堅和我一塊請求您、在神聖的祈禱中多為我們祈禱、在為天主的莫大光榮與本會的榮譽事業上多給我們幫忙、也請全体會友為我們祈禱。望天主以祂的聖寵與愛保佑您。

您在主內的不肖神子 利瑪竇敬書

一五八三年二月十三日 撰於澳門

【和訳】

4、リッチよりスペイン税務司長ロマン先生へ(1)
イエス マリア キリストの代理者である尊敬すべき先生へ

願わくば神の恵みが私達の上に満たされん事を。
私は以前、ルッジェーリ神父がマカオに行くというので、この手紙を持って行ってもらい、貴方に届けてもらう良い機会だと思いましたが、でなければ、この手紙は中国官吏の手に落ちていたことでしょうし、それがまた面倒を引き起こすことになるからです。そのほか、ルッジェーリ神父はマカオに行つてやらなければならない仕事もあり、それは私達が言っている、皇帝に謁見するため何か不足していることを補うためでもあります。彼はこの事情には私より詳しいので、沢山の事を明確に言っておかなければならないでしょう。特に、マカオには、この事情をたくさん知りたい人がいますから。このような状況なので、今はその外の事は一切放り置いて、まずは皇帝に挨拶をして善意を持つてもらえるよう、私達の上司へ協力を請わなければなりません。

中国は最も古い帝国の一つで、歴史は長く、私達の先祖もこの国のことを知っていました。しかし、中国という名前を知っているだけで、その歴史については余り知りませんでした。彼等は以前は唐人と言っていました、今は「大明」と称していません。習慣的に、中国の名は王朝や皇位の移り変わりによって変化し、明朝は既に二百年以上の歴史を誇っています。国を開いた皇帝が名を付け、皇位継承者が以後その名を続けて使用します。プロレマイオス朝に近い時代の頃、中国では「秦」という国が興っていたようで、その時に一人の才能と権力に恵まれた君主(始皇帝)がいました。彼は多くの軍事用の城壁を築き、特に北方のタタール人との国境には長い城壁を築き、その長さは全く人を驚かせるもので、特に名付けて「万里の長城」と呼ばれました。ヨーロッパの人はこの国(中国)のことをいつも「秦」(China)と呼んでいますが、王朝によって名前が変わるので、今の明朝とは何も関係がありません。

中国の位置に関しては一枚の地図を描くようです。まず南はコーチナからまっすぐ東北の先端である遼州、これも中国の一つの省なのですが、に至り、そこから上の方向に海に沿って行くと日本に着きます。大体経度にして百二十度から百三十七度なので副多那島(カナリア諸島)の真裏です。以前、私は二回の月食をはっきりと観察したことがあります。一度目はマカオで詳しく観察し、もう一回はマカオの北にある肇慶で、そこは大体東経百二十四度くらいの所です。その南の海岸は緯度にして、二十から二十八度の間にあり、北極から換算すると、中国北部のタタール人との国境は、北極から離れること大体(北緯)四十四、五度の所になります。私が旅行したときに、日程から算出してみました。古代中国には十八の諸侯が分立し、各々が国を建てていたので、十八の王国がありました。その後、一人の皇帝に統一され、国土を九つの州に分割しました。その一つ一つが川を境として区切られているので、まるで島のように見えます。現在は十五の省に分けられています。つまり北京、南京、山東、山西、陝西、河南、浙江、江西、湖広、四川、福建、広東、広西、雲南、貴州です。どの省

にも大都市が一つあり、それを省都といひ、それぞれ名前を持っています。そこには巡撫が常駐していて省内総てを管理しています。

今回、私は閣下に中国全体の地図をお送りできません。中国の地図は平たい板の上に描かれていて、ヨーロッパ方式通りに各々の省の地図をまどうまく並べる事が出来ないでいるからです。しかし、神の助けによつて、近いうちに地図をお送りできると思います。各所を隅々まで描き、各省とその都市を見る事が出来るようになれば非常に目を楽ませるものだと思います。

中国の土地は非常に肥えていて、美しく、豊かです。中国人の知識と能力によつて、真に異常なほど発達してすばいものです。これらのことについて詳しく描写しようとするのなら、大きな本何冊分になるでしょうが、閣下の希望を満足させたいので、まずはここでは私が見たことを簡単に紹介いたします。

中国の土地の肥沃なことは、他の土地とは比べものになりません。この大きな土地は、二方が海に面し、その土地の間には川が流れ、三種類の気候帯(熱帯、温帯、寒帯)に跨がっていて、その大部分は温帯に属しています。お陰で寒帯、温帯、熱帯、の三種類の果物が味わえますし、麦と米は本当に豊かです。各種の肉類も豊富にあり、他のどんな場所にも劣りません。この国では、色々な家畜が飼われ、綿羊や山羊もいます。しかし、羊毛を取るためのものは少なく、また乳製品も食べないので、中国人の嗜好は私達と全く違うようです。中国人は比較的黄牛と水牛を大事にして数も多いのですが、それらの多くは農耕用やその他の雑務用です。衣服に関しては、羊毛の製品は少なく、殆どが綿製品で、中国や近隣諸国の人も綿製品を使っています。更にインドやポルトガルにまで出荷して販売しています。また彼らは絹織物も盛んに生産し、その柔らかく、繊細なことといったら、閣下も、その他の人も信じられない程です。ご自分でマカオにいらつしやれば、インドや日本に膨大な量が船で運ばれるのを見られるでしょうし、それらが又非常に安価なことがお分かりになると思います。中国の人々は儉約家ですが、絹織物を着ることは至つて普通なことです。その外、麻やその外の植物でも衣服を作りますが、これも私達にはないことです。彼らは高粱や米を醸成して酒を造ります。これらはたとえ大変貧乏な人でも、わずかなお金で一日分が賄える程安く、水を飲むという習慣が無いのです。一般的に葡萄酒は使われません。これは彼等が葡萄酒のことを知らないからなのか、または、生産量が少ないことが関係あるからなのかは不明です。同様に、オリーブ油も作られておらず、オリーブの木は有つて、オリーブの実もなり、出来る量も少なくないのに、その多くは燃料用に刈り取られるのです。食用の果物も沢山ありますが、大雑把に言えばヨーロッパにあるものとほとんど同じです。中国全体で肥沃な土地から生産される果物はたくさんあつて、中には私達が見たことの無いものもあります。彼らの書籍に記載されている所によれば、他の場所には又別の果物があるそうです。木材も余る程あり、それは大きな山脈があるからで、私的にも公的にも人々が都市に運んで来て売つてもまだ余る程です。砂糖や蜂蜜、香料や薬などについても尽きることには有りません。一言で言えば、この土地は肥沃で、物産が豊富であるから何も外から輸入する

必要はないのです。この為、彼らは外国との通商などに全く注意を払わなかったのです。特に言及しておくべき事は、米や麦、野菜に関しては、生産量ははるかにスペインより多く、私がじかに見たものでも、少なくとも、一年に二度収穫を行なうことです。彼らは、私達ヨーロッパでは一年田畑を休めてからしか種を播くことが出来ないことを聞くと、必ず怪訝な顔をします。何故なら、彼らは一年に二度どころか三度、収穫することもあり、特に麦は米のように水をたくさん必要としないからそのようなことも可能になるようなのです。このような事は、彼らの手入れと種を播く方法や、土地を耕すことなどが上手に噛み合っている点に理由があり、これらに関して、彼らは私達より上手にやるようです。

中国には生れ付き好奇心と楽観的見方があります。中国全体はまるで一つの花園の様で、何とも言えない静けさと安らぎで満ちています。陸上は果樹や木々、野菜などで充たされ、一年の殆どを青く彩り、広大な良い田畑と豊かな作物であふれています。そしてあちこちに川が流れ、その大部分は船が行き来でき、大きな運河ではそこを通過して北京まで行くことも出来ます。人々は陸路でもいけますが大体三カ月はかかります。要するに、船で行くか、陸で行くかは人の自由なので、まるで大きなベニスのようにです。これらの川は、流れが非常に静かで、兩岸の木々は陰を作り、本当に美しく、至る所に緑が映え、少なくとも広東の情景はこのようなものです。天然の川以外にも、人工的に掘られた運河があり、それらは大きな都市を通過しています。このように中国全体を運河や河が走っているのです。以前ある高級官吏や貴族がビヤクダン製の大きな船に乗り、川を通過して行く時、その船は彫刻を施されて美しく飾られ、机やイス、ベッドや丸イスなど皆一応備えられているほどでした。これらは総て旅行用のためだけというのではなく、高級官吏が各地を巡り遊覧したりするのにも使われ、ある時は特殊な要人が所有する産業を巡視したり、遠くの友達を訪ねたりつたりするのにも使われました。他にも、巡撫が管轄する省区域を巡察する時にも使われます。

(訳文注)

(一)この書簡は長い文章であるため、紙幅の都合から、前半と後半部に分け、今回は前半部のみ掲載している。また、これまで同様、平川氏『マッテオ・リッチ伝』において、この書簡は特に八二頁以降に詳細に紹介されているので参照されたい。

【中国語・原文】

四、利氏致西班牙稅務司司長羅曼先生書 一五八四年九月十三日 撰於肇慶

耶蘇 瑪利亜

在基督內極可敬的先生…

願基督的平安常充滿我們的心靈!

我曾希望由羅明堅神父去澳門 把這信帶去給您、真是個大好的機會、否則這封信函如落到中國官吏手中、那會為我們惹出麻煩的。另外、神父去那裡也有事要辦、也就是他主張我們去見皇帝、他會補充這事的不足之處、因為他知道這裡的事比我更清楚、必須將許多事講得明、特別是那裡有人希望知道許多事情。這

樣、現在放下其他的一切、首先應該致謝皇帝及所有懷有善心願意協助我們的各位大人們。

中國是一個最古老的帝國、歷史悠久、我們的祖先已認識它、不過僅知名為中國、對其歷史所知不多。他們在過去曾稱為唐人、而現在則稱「大明」。習慣上、中國改名是根據朝代及王位的變遷而有變更、明朝已有兩百多年的歷史了。開國皇帝取了名稱、其繼承者也延用下去。接近托勒密時代、中國的朝代似乎為「秦」、那時曾有一位聰明又有威力的君王（始皇帝）、他興建了許多軍事城堡、而特別在北方與韃靼為界之處、築了長城、其長度真是驚人、特名「萬里長城」、歐洲人常稱它為「秦」國、雖然、中國已改變了朝代。但這都沒有關係。

關於中國的位置、似乎宜繪一張地圖、先從南部交趾支那、直到東北的尖端、是遼州、它屬中國的一省、自那裡向上沿海可至日本、那是從一百廿度或一百廿七經度、直到福多那島、我曾清楚的觀察過兩次月蝕、一次在澳門、很仔細地觀察、而另一次在肇慶、它在澳門北方、差不多在一百廿四度左右。其南方海岸在廿至廿八度之間、從北極算起、在中國北部為韃靼區、差不多離開北極有四十四、五度。當我旅行時、由計算日程而算出出來的、它的距離是用義大利的尺寸計算出來的。

古代中國計有十八個諸侯、就分建十八個王國。以後歸一個皇帝統治、帝國內分九州、一如島一樣、因為是沿河流而畫分的、現在分為十五行省、就是、北京、南京、山東、山西、陝西、河南、浙江、江西、湖北、四川、福建、廣東、廣西、雲南、貴州。每省有一座大城、稱為省會、各有其名、皆有撫台駐守、管理全省。這次、我不能給閣下繪整個中國地圖、中國地圖是畫在平板上的、按我們西洋的方式、每省各有地圖、因為尚未排好次序。但希望天主保佑、很快地能將它們寄給閣下。各處都有記載、並可看到各省和其中的城市、非常美觀悅目。

中國土地的肥沃、美觀、富有和中國人的智識與能力、真是卓越異常、太高大了。如把它詳細寫出、那就需要幾大冊了、為滿足閣下的希望、我不得不將我所見的略為介紹。

中國土地的肥沃、其它土地無與倫比。那是一塊很大的土地、兩邊由海岸所包圍、其間充滿着淡水的河流、氣候有三種、熱帶、溫帶與寒帶、而大部分屬溫帶、因此它有寒、溫、熱三帶的水果、麥子與稻米皆很豐盛。富有各種肉類、故不亞於任何其它地方。這裡擁有很多類的牲畜、包括綿羊與山羊、但是、由於羊毛用得少、又不吃奶製品、因中國人中的嗜好與我們全然不同。他們比較重視黃牛和水牛、所有數量也很大、但多用於耕田與其他用途上。衣著方面、少許由羊毛製成、而極大多數為棉製品、中國人及隣國也都採用它、再運到印度和葡萄牙出售。他們也盛產絲綢、它的細緻柔軟、是閣下及其他人都無法置信的、除非親身來過澳門、也可見到上船運往印度或日本的龐大貨物、同時又是非常地價廉。而在中國、人們雖儉於消費、但穿綢緞很是普遍的。此外、也有麻類及其他東西製成的衣服、也是我們一般所沒有的、他們用高粱與米釀成酒類。因此、即使很窮的人、買五毛錢的酒、也可足一天之用、而不習於喝水。普通不用葡萄酒、我不知是否由於不知、或是的於生產量少的關係。同樣對橄欖油也不會製造、有橄欖樹、也結橄欖、產量也不少、多作燃料用。食用水果豐盛、大致說來、與我們所有的差不多。整個中國是塊生產各種水果的肥沃土地、雖然、還有許多種類、是我們所

沒有的、他們書籍記載、在別處還有別的不同水果。木材也不少、因為有大山脈、公私的都有、人們拿來城市供銷而有余。至論糖、蜜、香料以及其他藥劑等、無不大有盡有。一言以蔽之、此地土地肥沃、物產豐富、無需任何外來的產品。為此、他們毫不注意與別國通商的事務。特別要提到的、麥子與稻米以及其他蔬菜、產量遠超過西班牙、這是我親眼見到的、至少、每年收穫兩次。他們聽說我們歐洲要讓田地休息一年才能播種的事、無不感到十分奇怪。因為他們一年不僅兩次、也有三次收成的事、特別是麥子、它不像稻子那樣、需要很多的水、這方面是歸功於照顧與播種的得法和土地的耕耘良好的關係、他們耕種似乎比我們更好。

中國天生好奇與樂觀、它整個看來像一座大花園、並有無可形容的寧靜與安祥。陸地上充滿著果樹、森林、蔬菜、大部分整年一片青綠、充滿著巨大的良好田地和豐盛的莊稼、各處全面淡水河流分佈其間、大部分都能航行船隻、大運河還可通航到北京、人們也可以由陸路前往、那需要三個月、總之、水陸兩路、任人自取、好像一個大威尼斯。這些河流真是非常的寧靜、兩岸的樹木成蔭、真是柳暗花明、處處一片青翠、至少廣東的情形是如此、除了天然河流之外、還有人工所掘的運河、通過很大的城市。這樣貫通整個中國、曾有某個達官貴人、要人以檀香木製成大船在大河中航行、雕舟面舫、棹椅、床、登一應俱全。這一切不僅是作旅行之用、也是為大官作巡遊之用；有時是為特殊要人去巡視所有產業、遠訪友好之用。有時則是巡撫視所屬省區等之用。

【謝辭】

・本件は J S P S 科学研究費補助金（課題番号 16K02162 基盤 C）の助成を受けた研究成果の一部である。（課題名「16 世紀來華イエズス会士による異文化対応の諸相―「利瑪竇的規矩」の内実と展開―」）

（二〇一七年十一月六日 受理）